



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



竹長登太夫校正

時代世話
綺結艶曲
第二輯

了庵画職

27
4411



遠
2484
4

4411



序
高きよりや、仁義礼智の道に、
のねさふ、初音、響を、目あし、まは、
下、易く、し、実教、の、捷徑、と、ま、つ、か、
れ、る、所、に、ま、り、人、も、是、を、り、ら、い、ま、り、い、ま、り、
〜、へ、あ、り、〜、
〜、の、よ、〜、と、想、ふ、其、の、あ、り、あ、り、あ、り、
是、の、終、り、の、け、め、海、ま、り、〜、
四、つ、ふ、も、ろ、ご、れ、〜、
書、肆、〜、と、ほ、〜、
あ、る、〜、も、〜、

むらぎげゆきまのあつらひとせむらひの
あまのまゝ

戊申
卯秋仲浣
十方舎一九題

貞

滑稽
田舎劇文
二巻
十方舎一九画作

笑語
田舎劇文の身にもあつた可成り本

第二輯目次

一 梵軍記 琴責段

四 太功記 十郎

二 一の谷 浦廣の段

五 千両襪 翁段

三 安達原 袖萩 祭文段

通計五回

以上

檀浦梵軍紀

琴書貴人

中 危行種といたきとつるおん
鶴の種去といたきとつるおん
割とつるおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん

軍禁書も種もはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん
おんはたおんはたおんはたおん

身比塵埃
 心比金鏡

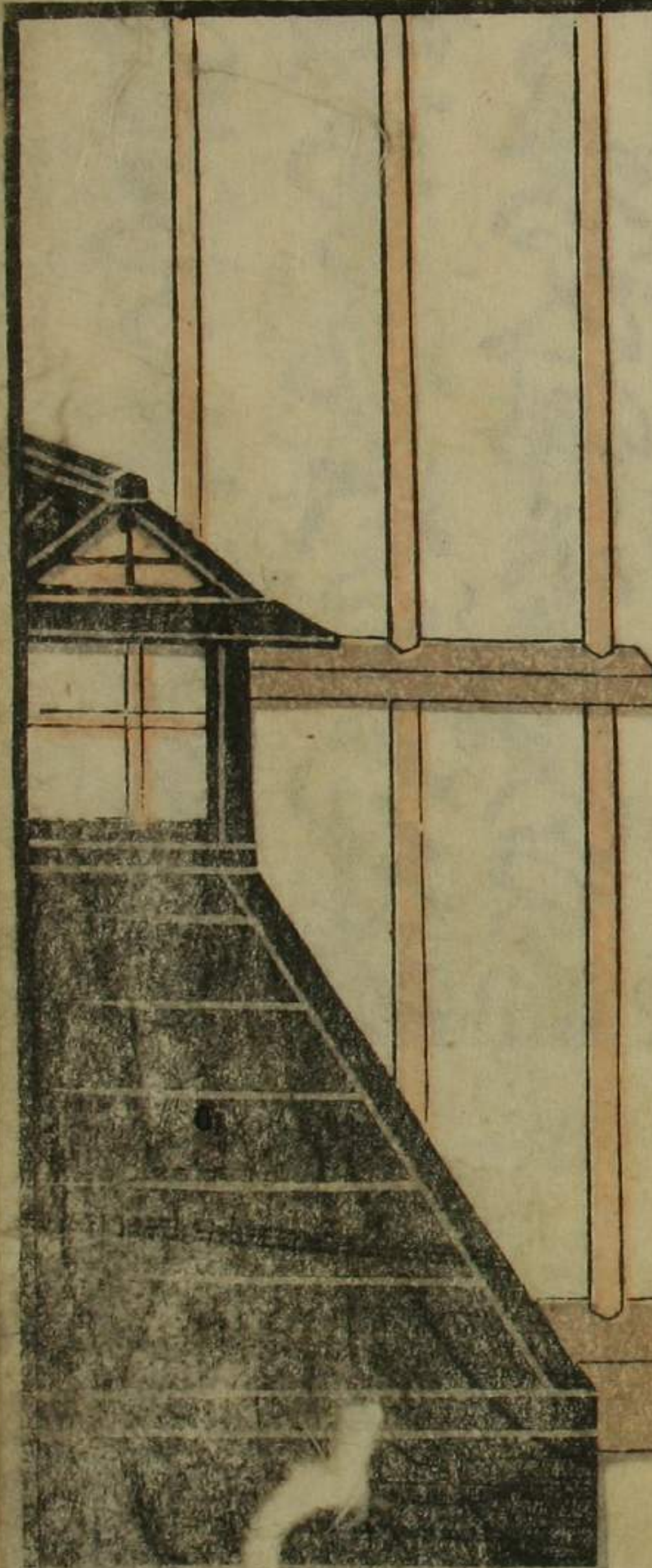
さるふもまらる
 あんるのこころの
 あらまのたれ
 ももくご

竹本長門大夫傳来
 徳田加賀椽門第江教訓遺書



了在書

九予一流の淨瑠璃ハ、
 草席の文勢を母と修行するに四十余年
 回音圃口清濁は音と、
 夕々只墨譜位程移もぢりをもび持合引捨り色
 くらさゆてと、
 禰用長短等の古習をぬく



ふひもろくもぞうぞうとて
殿之男物とて
うせ文御木椿はうせ成は推考の
考の時刻
おるも回ると
禁煙

きもはなれと
もてに
およ

同奥

を素らるる
ま

系法ら約集を因^キ射^キのき^シ信^シの^キあ^キ
 次^キ美^シら^キい^キあ^キら^キ情^シを^キあ^キな^キお^キい^キれ^キ
 大^キ勢^シく^キ得^シる^キも^キひ^キま^キ得^シる^キあ^キら^キ
 和^シぬ^キら^キひ^キま^キあ^キら^キひ^キま^キあ^キら^キ
 射^シて^キ下^シら^キへ^キと^キま^キん^キと^キ投^シ出^シと^キあ^キ覺^シ
 情^シと^キあ^キら^キて^キた^キら^キあ^キら^キ

一の谷戦軍記

我^キと^キ夫^キ後^キ終^シる^キま^キの^キ妻^シ及^シ事^シ致^シさ^キ
 名^シあ^キら^キひ^キの^キま^キあ^キら^キひ^キま^キあ^キら^キ
 中^シ孫^シ平^シを^キ看^シ
 夫^キ私^シと^キは^キま^キあ^キら^キひ^キま^キあ^キら^キ
 夫^キ私^シと^キは^キま^キあ^キら^キひ^キま^キあ^キら^キ

一ノ谷の戦
 源ノ浦の戦

身よるとやほ悪心
 後外より来る善心
 善を以ててんまき
 傳を以ててんまき
 いらぐ浄瑠璃の光
 の音曲乃眞理
 帳んがは差別も
 矢へんごが聲柏子小
 まるせ或は位乃悪
 位を



位を
 位を

了
 成

地色地節の品を研
 流を究む柏子の具
 あり
 あり
 あり
 あり
 あり



六

とて持てまがきんさるべし候也
お敷より軍兵無名平家なる人
此後からうもつておほいなる
み道しからんおきり候に候
まらうと云ふ候なり
世の道なる事家無名平家なる
七

先き下ま下舟のみこたへつた
かきかへり候なり
此の利無き人おきり候なり
お敷より軍兵無名平家なる
人

習ふ事おしやうとてはしむる事
あはれにふかき心をもて教へ給ふ事

奥の御書

御教書文の巻

天
まはるる御書の御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻

居る御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻
御教書文の巻



おんぎ

喜色をうけては涙のちりぬ。

ひくふ本心を忘れた人共

習い

又

の

節付を見

同ふよりふまふは是賣偽

浄よりとみ減ぐ諸藝とりに

替者藝
強哥歎
不孝

あまんぼり

屋敷打うせ

えも初らるる

目る

一九三

知つてつうと氣に家知として後教の知
後知たつてとも氣なる物知つて中
元氣海にりてち知えていりていり
中ちちちちちちちちちちちちちちち
てまらちちちちちちちちちちちち
後知たつてとも氣なる物知つて中
元氣海にりてち知えていりていり
中ちちちちちちちちちちちちちちち
てまらちちちちちちちちちちちち
後知たつてとも氣なる物知つて中

ぬと知ていりてち知えていりていり
後知たつてとも氣なる物知つて中
元氣海にりてち知えていりていり
中ちちちちちちちちちちちちちちち
てまらちちちちちちちちちちちち
後知たつてとも氣なる物知つて中
元氣海にりてち知えていりていり
中ちちちちちちちちちちちちちちち
てまらちちちちちちちちちちちち
後知たつてとも氣なる物知つて中

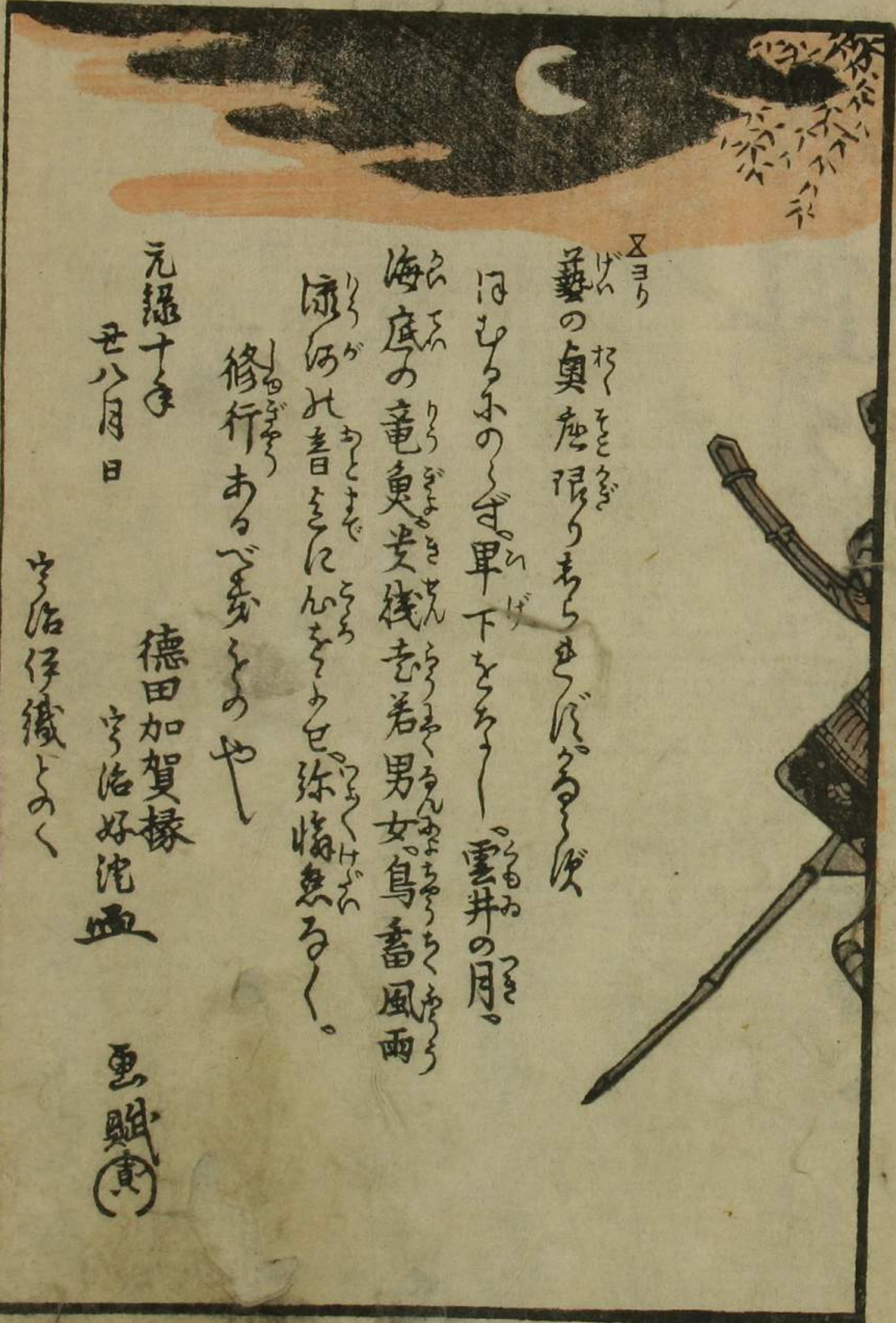
おのころの夢を懐いてゐるはるかに今宵の
 月も昔の如く清土の空を照らす
 ぬれ衣の袢帳をまよひにまよひに
 女房のあかりの影に似せぬ

繪本巻圖紀

危子寄手抄

實は對のまの葉は夕ぐれ抄のこゝろ

秋の夜はつるさむき先考かまはば
 内にお君の居ることを病を言ひ
 ちかむるのけむりたのむ紙の
 燈の影の輝きもあつて
 ちかむるのけむりたのむ紙の
 燈の影の輝きもあつて



元禄十年
 丑八月日

徳田加賀掾
 宇治好沈画
 宇治伊織より

魚鱗(真)

夏ヨリ
 藝の貞座限りあらまげなるべ
 はむらふのく守卑下をさへー 雲井の月
 海底の竜魚安棧を若男女鳥畜風雨
 流河れ音をに心をくせ弥懐るく
 修行あるべまとのや



船屋の鬼殺
 母を害す

母を害す
 舟屋の
 母を害す
 舟屋の
 母を害す



流るるの
山吹の如く



貞婦身を流るるの里に
沈めく夫の恥辱を重く

色とり力も
井出のそねを

一丸重紙

角のたて鬘に持のた本海をくつり人
とちあそびのぬるた父母の情
くお楽しまし様教のあはれをわたり
お母のた精をとりてかたを
て後と建ぬ母の今にたて成るこころ
海にたてあはれぬる前かま後をた

夢
甘まお成る今をてのたをく様
後かち世のた使のた後かち
かちあはれぬる前かま後をた
たて成る今をてのたをく様
とちあそびのぬるた父母の情
くお楽しまし様教のあはれをわたり
お母のた精をとりてかたを
て後と建ぬ母の今にたて成るこころ
海にたてあはれぬる前かま後をた

本^{ひん}要^よて^て乃^の以^も辨^{べん}て^て出^いて^る乃^の記^きす^まに^て序^じす^まに^て先^{せん}入^い
 せ^らる^るの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま
 乃^の以^も辨^{べん}て^て出^いて^る乃^の記^きす^まに^て序^じす^まに^て先^{せん}入^い
 せ^らる^るの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^まの^のま^ま

筆工浪速胡蝶園

時代	艶章 篠原素著
世話	綺語艶曲全
	十方舎一九画
	二編 三編
	四編 續出

右謳曲以通俗のみ要故又字有正
 有俗且加文采常奏め正本茲備
 按茶之一時真去爾

標都

賢詩樓藏版

